

「思い出のうた」形成過程の分析

— 教育学部生と音楽学部生の比較 —

野村 幸治・古賀 弘之

(2003年9月30日受理)

An analysis of the formation process of a “memorable song”

— A comparative study of students of the department of education and music major students —

Koji Nomura and Hiroyuki Koga

An inquiry about the aspects involved in the formation process of a “memorable song” was conducted. The purpose was to find out if differences existed in the formation process of a “memorable song” between students majoring in music and students majoring in other subjects. The primary focus of the inquiry was placed on the following four points: 1. The title of a “memorable song”, 2. The person associated with the formation process, 3. The place associated with the formation of a memorable song, 4. An Incident, a situation, or a feeling connected to the formation process of a memorable song. After an examination of the four primary points of focus the following facts about a “memorable song” became apparent: a “memorable song” was mostly choral music, it was associated with friends or a teacher, the place connected to the formation process was mostly a school gymnasium or a classroom. Amongst the students not majoring in music, the most frequent incident was a chorus contest associated with a feeling of fulfillment or excitement. Whereas the students majoring in music appeared to connect a “memorable song” with regular classroom circumstances in which they had accompanied a solo artist or a chorus, often associating this incident with a feeling of pride. The timeframe in which the students had formed these memories was mostly the period preceding junior high school graduation. This indicates the importance of music education in junior and senior high school and its relation to the feelings associated with music later in life. Consequently the selection of appropriate teaching materials should be stressed.

Key words: “memorable song”, the formation process of a “memorable song”, musical education at school, the selection of teaching materials

キーワード: 「思い出のうた」, 「思い出のうた」形成過程, 学校音楽教育, 教材選択

問題・目的

小学校, 中学校への就学が義務づけられている中で, 児童・生徒は学校教育の一貫として様々な音楽に接している。その機会の多くは, 音楽の授業や学校行事であることが想定される。しかし, 学校教育で接した音楽が, 学校教育の場面以外で児童・生徒にどのような

影響を及ぼしているかについての詳細な検討は行われていない。

野村・藤墳・山田(1991)では, 「思い出のうた」の形成過程について探索的研究が行われている。この研究では, NHKの「あなたが選ぶ日本のうた ふるさとのうた」という企画で募集された, 「親から子へ, 子から孫へのメッセージとして伝え残したい日本のう

た」に対し寄せられた資料について分析が行われた。しかし、ここで分析対象とされたのは中高年の世代がほとんどである。したがって、戦後という時代背景における「思い出のうた」形成過程の分析である。この結果からは今日の学校教育における音楽の影響を直接的に検討することはできない。そこで、本研究では比較的近年の学校教育における音楽の影響を受けた「思い出のうた」の形成過程を明らかにすることを目的とする。したがって、その影響を想起し、言語による報告が可能である大学生を対象とし、「思い出のうた」形成過程の分析を行う。

方法

対象者 広島大学学校教育学部学生145名（男性42名、女性102名、不明1名）、エリザベト音楽大学音楽学部学生119名（男性5名、女性114名）

調査時期 1997年4月12日

調査方法 野村ら（1991）を参考に、質問紙法により、①自分自身にとって「思い出のうた」と思われる楽曲のタイトル、②「思い出のうた」の形成に関連のある人物、③「思い出のうた」の形成された場所、④「思い出のうた」が形成された当時の出来事・状況・感情、の4項目について回答させた。④については、自由記述により回答させた。得られた資料の各項目について分類を行い、回答が多義的に解釈される、「思い出のうた」が形成された当時の感情と、「思い出のうた」の形成過程については、3人の評定者（大学院生）による分類を行った。

なお、歌唱を含まない楽曲を「思い出のうた」のタイトルとして挙げていた資料は除外した。そのため、分析対象は教育学部学生141名（男性40名、女性100名、不明1名）、音楽学部学生113名（男性4名、女性99名）とした。

結果

I. 「形成の時期」による分類

表1. 教育学部学生・音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「時期」による分類*

形成の時期	教育学部	音楽学部
幼稚園以前	2 (1.4%)	9 (8.0%)
小学校	29 (20.6%)	21 (18.6%)
中学校	50 (35.5%)	35 (31.0%)
高等学校	25 (17.7%)	24 (21.2%)
予備校	5 (3.5%)	0 (0%)

大学	9 (6.4%)	5 (4.4%)
小学校・中学校	1 (0.7%)	0 (0%)
中学校・高等学校	1 (0.7%)	0 (0%)
小学校・高等学校	0 (0%)	1 (0.9%)
小・中・高等学校	1 (0.7%)	0 (0%)
不明	14 (9.9%)	18 (15.9%)
なし	4 (2.8%)	0 (0%)

*教育学部は総数141を、音楽学部は総数113をパーセンテージの分母とした。

II. 「形成の年代」による分類

表2. 教育学部学生・音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「年代」による分類*

形成の年代	教育学部	音楽学部
幼稚園前	1 (0.7%)	2 (1.8%)
幼稚園	1 (0.7%)	7 (6.2%)
小1	2 (1.4%)	0 (0%)
小1-2	1 (0.7%)	1 (0.9%)
小3	2 (1.4%)	3 (2.7%)
小3-4	1 (0.7%)	1 (0.9%)
小4	0 (0%)	3 (2.7%)
小4-5	1 (0.7%)	0 (0%)
小5	4 (2.8%)	3 (2.7%)
小5-6	2 (1.4%)	0 (0%)
小6	13 (9.2%)	7 (%)
小学校 (年代不明)	3 (2.1%)	3 (2.7%)
中1	6 (4.3%)	3 (2.7%)
中2	5 (3.5%)	3 (2.7%)
中2-3	1 (0.7%)	1 (0.9%)
中3	27 (19.1%)	15 (13.3%)
中学校 (年代不明)	11 (7.8%)	13 (11.5%)
高1	1 (0.7%)	2 (1.8%)
高2	1 (0.7%)	5 (4.4%)
高3	14 (9.9%)	8 (7.1%)
高校 (年代不明)	9 (6.4%)	9 (8.0%)
予備校	5 (3.5%)	0 (0%)
大学1	3 (2.1%)	0 (0%)
大学2	1 (0.7%)	1 (0.9%)
大学3	1 (0.7%)	1 (0.9%)
大学 (年代不明)	3 (2.1%)	3 (2.7%)
小学校・中学校	1 (0.7%)	0 (0%)
中学校・高等学校	1 (0.7%)	0 (0%)
小学校・高等学校	0 (0%)	1 (0.9%)
小・中・高等学校	1 (0.7%)	0 (0%)

不明	14 (9.9%)	18 (15.9%)
なし	4 (2.8%)	0 (0%)

*教育学部は総数141を、音楽学部は総数113をパーセンテージの分母とした。

卒業する年代に「思い出のうた」が形成されやすい。この理由として、卒業という節目により慣れ親しんだ友人との別れが意識されるため、この時期に集団で「うた（合唱・斉唱）」をうたうことが、集団としてのアイデンティティー（仲間意識）を再確認し、強化するという特別な意味を持っている可能性が考えられる。卒業する学年は、日常そのものが非日常化しており、それが思い出の形成に関与しているのであろう。また、実際に卒業式、すなわち舞台という非日常も近づく。

特に、思春期にはアイデンティティーの確立が始まり、集団の中で自己が確立される。この時期に合唱を行うことは、集団の一員としての自己を捉えることにつながる。そのため、特に合唱が「思い出のうた」として形成されていることが考えられる。

III. 「人」による分類

得られた資料から、「思い出のうた」形成過程に関わった「人」を、まず①学校関係、②家族関係、③その他に分類した。次に、各内容について下位分類を行った。

表3. 教育学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「人」による分類*

学校関係	家族関係	その他
107名 (80.0%)	7名 (5.2%)	20名 (14.9%)
友人 55 (41.0%)	父3 (2.2%)	学校外の先生 1 (0.7%)
友人 - 先生 24 (17.9%)	兄弟1 (0.7%)	学校外の友人 6 (4.5%)
先生 17 (12.7%)	母1 (0.7%)	演奏者 1 (0.7%)
好きな人 11 (8.2%)	祖父 0 (%)	メディア 9 (6.7%)
友人 - 好きな人 0 (0%)	親戚1 (0.7%)	牧師 0 (0%)
	家族1 (0.7%)	特にいない 3 (2.2%)

*「思い出のうたがない」と回答していた4名と、「思い出のうた」形成過程に関わった「人」がいないと回答していた3名を除外し、総数134をパーセンテージの分母とした。

表4. 音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「人」による分類*

学校関係	家族関係	その他
86名 (76.1%)	7名 (6.2%)	20名 (17.7%)
友人 35 (31.0%)	父3 (2.7%)	学校外の先生 8 (7.1%)
友人 - 先生 26 (23.0%)	兄3 (2.7%)	学校外の友人 2 (1.8%)
先生 17 (15.0%)	母1 (0.9%)	演奏者 0 (0%)
好きな人 5 (4.4%)	祖父 1 (0.9%)	メディア 5 (4.4%)
友人 - 好きな人 3 (2.7%)	親戚2 (1.8%)	牧師 1 (0.9%)
	家族0 (0%)	特にいない 4 (%)

*パーセンテージは総数113を分母とした。

「人」による分類を行った結果、「学校関係の人」が最も多かったことが示された。ここで、「好きな人」が「思い出のうた」形成過程に関わったという回答の中で、「学校」に関するキーワードがまったく含まれていなかったデータを除外した。そのため、調査総数は教育学部学生で107名、音楽学部学生で86名とした。以下では「思い出のうた」形成過程に関わった人として「学校関係の人」が挙げられていた資料をもとに、「友人型」「友人 - 先生型」「先生型」「好きな人型」「友人 - 好きな人型」について分類を行う。

IV. 「場所」による分類

「思い出のうた」形成過程に関わった人として「学校関係の人」が挙げられていた資料をもとに、「思い出のうた」形成過程に関連する「場所」について分類を行った。

表5. 教育学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「場所」による分類

5-1: 全体 (107名)

学校内 86名 (80.4%)	学校外 21名 (19.6%)
体育館 32 (29.9%)	ホール 8 (演奏6, 鑑賞2) (%)
教室 23 (音楽室7) (21.5%)	カラオケボックス 3 (2.8%)
複数の場所 13 (12.1%)	家 6 (自宅5, 友人宅1) (5.6%)
学校 5 (校舎3, 廊下2) (4.7%)	学校前の空き地 1 (0.9%)
グラウンド 4 (3.7%)	スキー場 1 (0.9%)
部室 1 (0.9%)	結婚式場 1 (0.9%)
不明 8 (7.5%)	受験会場 1 (0.9%)

教育学部学生では、「学校内」は「体育館」が、「学校外」では「ホール」が最も多かった。そこで、舞台やステージといった場所が、主に「思い出のうた」形成過程に関連していると考えられる。教育学部学生にとっては、舞台やステージという場所が特別な空間であり、そこでの音楽活動が特別な意味を持っていたと考えられる。

表6. 音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「場所」による分類

6-1: 全体 (86名)

学校内 67名 (77.9%)	学校外 20名 (23.3%)
教室 29 (音楽室 10) (33.7%)	家 11 (自宅 9, 友人宅 2) (12.8%)
体育館 18 (講堂 7) (20.9%)	ホール 2 (2.3%)
複数の場所 8 (9.3%)	修学旅行先のホテル 1 (1.2%)
図書館 1 (1.2%)	教会 1 (1.2%)
グラウンド 5 (広場 1) (5.8%)	通学路 1 (1.2%)
学校 4 (教室 3, 部室 1) (4.7%)	学校の近くの海 1 (1.2%)
不明 1 (1.2%)	公園 1 (1.2%)
	車の中 1 (1.2%)
	遊びに行った場所 1 (1.2%)

音楽学部学生では、「学校内」は「教室」が最も多く、「学校外」では「家」が最も多かった。そのため、少人数や個人といった、自己の心情と向き合いやすい場所が、主に「思い出のうた」形成過程に関連していると考えられる。これは、音楽学部学生は発表会等で舞台やステージといった場に慣れていることや、音楽学部学生は内向的な性格の者が多い可能性が考えられる。

以上、場所による分類について概観を行った。紙幅の都合上、詳細について付すことはできないが、「思い出のうた」は、①「学校内」で形成されることが多く、②「思い出のうた」形成に関わる人が「好きな人」である場合は、「学校外」で形成されることが多かった。

V. 「きっかけ」による分類

「思い出のうた」形成過程に関わった人として「学校関係の人」が挙げられていた資料をもとに、「思い出のうた」形成過程に関連する「きっかけ」について分類を行った。まず、全体の分類を行い、その後、「友人型」「先生型」「先生-友人型」の3つについて、上位2つまで「場所」ごとに分類を行った。

表7. 教育学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「きっかけ」による分類

7-1: 全体 (107名)

学校内 86名 (80.4%)	学校外 21名 (19.7%)
卒業式 26 (お別れ会 6) (24.3%)	卒業式後 1 (0.9%)
合唱コンクール 24 (22.4%) *	学外の合唱コンクール 3 (2.8%)
部活 10 (合唱 5, 野球 2, バレー 1, 軽音楽 1) (11.6%)	部活 2 (合唱 2) (1.9%)
文化祭 7 (合唱 6, 斉唱 1) (6.5%)	悩みが癒された 1 (0.9%)
授業 7 (研究発表会 2, 集会 1) (6.5%)	結婚式 1 (0.9%)
恋愛 4 (3.7%)	恋愛 4 (3.7%)
先生との出会い・別れ 2 (1.9%)	デート 1 (0.9%)
遊び 2 (カラオケ 1) (1.9%)	遊び 3 (カラオケ 3) (2.8%)
体育祭 1 (0.9%)	受験 1 (0.9%)
学校行事 1 (0.9%)	入学 1 (0.9%)
学年の劇 1 (0.9%)	転校 1 (0.9%)
死 1 (0.9%)	死 1 (0.9%)
	理由なし 1 (0.9%)

*「合唱祭」等は「合唱コンクール」に含めた

「人」別による「きっかけ」の分類

7-2a: 「友人」型 (54名)

学校内 44名 (41.1%)	学校外 10名 (9.3%)
合唱コンクール 14 (13.1%)	学外の合唱コンクール 1 (0.9%)
卒業式 14 (お別れ会 2) (13.1%)	卒業式後 1 (0.9%)
部活 8 (合唱 3, 野球 2, バレーボール 1, 軽音楽 1) (7.5%)	部活 1 (合唱) (0.9%)
文化祭 3 (2.8%)	転校 1 (0.9%)
遊び 2 (カラオケ 1) (1.9%)	遊び 3 (カラオケ 3) (2.8%)
授業 1 (0.9%)	悩みが癒された 1 (0.9%)
学校行事 1 (0.9%)	理由なし 1 (0.9%)
死 1 (0.9%)	死 1 (0.9%)

7-2b: 「先生」型 (17名)

学校内 13名 (12.1%)	学校外 4名 (3.7%)
授業 4 (研究発表会 1, 集会 1) (3.7%)	学外の合唱コンクール 1 (0.9%)
出会い・別れ 2 (1.9%)	部活 1 (合唱 1) (0.9%)
合唱コンクール 1 (0.9%)	結婚式 1 (合唱 1) (0.9%)
文化祭 1 (合唱 1) (0.9%)	受験 1 (0.9%)
部活 1 (合唱 1) (0.9%)	
体育祭 1 (0.9%)	

7-2c : 「先生 - 友人」型 (24名)

学校内 23 名 (21.5%)	学校外 1 名 (0.9%)
合唱コンクール 9 (8.4%)	学外の合唱コンクール 1 (0.9%)
卒業式 8 (お別れ会 4) (7.5%)	
文化祭 3 (合唱 2, 斉唱 1) (2.8%)	
部活 1 (合唱 1) (0.9%)	
授業 1 (0.9%)	
学年の劇 1 (0.9%)	

7-2d : 「好きな人」型 (11名)

学校内 5 名 (4.7%)	学校外 6 名 (5.6%)
恋愛 4 (3.7%)	恋愛 5 (4.7%)
卒業式 1 (0.9%)	入学 1 (0.9%)

「人」「場所」別による「きっかけ」の分類 (上位 2 位)

7-3a : 「友人」型 (31名)

体育館 21 名 (19.6%)	複数の場所 10 名 (9.3%)
卒業式 12 (お別れ会 2) (11.2%)	合唱コンクール 6 (5.6%)
合唱コンクール 3 (2.8%)	文化祭 1 (合唱 1) (0.9%)
部活 2 (1.9%)	部活 3 (合唱 2, 軽音楽 1) (2.8%)
授業 1 (研究発表会 1) (0.9%)	
文化祭 1 (0.9%)	
校歌 1 (0.9%)	
死 1 (0.9%)	

7-3b : 「先生」型 (12名)

体育館 5 名 (4.7%)	教室 7 名 (6.5%)
卒業式 3 (2.8%)	授業 3 (クラス集会 1) (2.8%)
授業 1 (研究発表会) (0.9%)	出会い・別れ 2 (1.9%)
文化祭 1 (合唱 1) (0.9%)	部活 1 (合唱 1) (0.9%)
	合唱コンクール 1 (0.9%)

7-3c : 「先生 - 友人型」型 (17名)

体育館 8 名 (7.5%)	教室 9 名 (8.4%)
卒業式 3 (2.8%)	お別れ会 4 (3.7%)
合唱コンクール 3 (2.8%)	合唱コンクール 2* (1.9%)
文化祭 2 (合唱 1, 斉唱 1) (1.9%)	卒業式 1 (0.9%)
	学年の劇 1 (0.9%)
	授業 1 (0.9%)

*卒業式と関連があった。

表 8. 音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「きっかけ」による分類

8-1 : 全体 (86名)

学校内 66 (76.7%)	学校外 20 (23.3%)
合唱コンクール 16 (18.6%)	テレビ 2 (2.3%)
授業 14 (試験 3, 学年の合唱 1) (16.3%)	卒業演奏会 1 (1.2%)
卒業式 12 (14.0%)	転校 1 (1.2%)
休み時間・放課後 3 (3.5%)	下校時 1 (1.2%)
部活 3 (合唱 1) (3.5%)	人間関係 1 (1.2%)
出会い・別れ 3 (3.5%)	悩み 1 (1.2%)
文化祭 2 (合唱 2) (2.3%)	旅行 1 (1.2%)
文化祭 2 (軽音楽 2) (2.3%)	体育祭後 1* (1.2%)
転校 2 (2.3%)	失恋 2 (2.3%)
卒業式後 1 (1.2%)	死 1 (1.2%)
卒業演奏会 1 (1.2%)	コンクール 1 (1.2%)
校歌 1 (1.2%)	貝堀 1 (1.2%)
運動会 1 (1.2%)	片思い・歌詞 1 (1.2%)
定期演奏会 1 (1.2%)	告白・雰囲気 1 (1.2%)
お遊戯会 1 (1.2%)	好きな人が好きだった 1 (1.2%)
給食時間の BGM 1 (1.2%)	友人がテープをくれた 1 (1.2%)
体育祭の BGM 1 (1.2%)	気持ちと一致した 1 (1.2%)
レコード 1 (1.2%)	ラジオ・歌詞 1 (1.2%)

「人」別による「きっかけ」の分類

8-2a : 「友人」型 (33名)

学校内 22 名 (25.6%)	学校外 11 名 (12.8%)
合唱コンクール 6 (7.0%)	テレビ 2 (2.3%)
卒業式 4 (卒業演奏会 1) (4.7%)	卒業演奏会 1 (1.2%)
休み時間・放課後 3 (3.5%)	転校 1 (1.2%)
授業 2 (2.3%)	下校時 1 (1.2%)
文化祭 2 (合唱 2) (2.3%)	人間関係 1 (1.2%)
文化祭 1 (軽音楽 1) (1.2%)	悩み 1 (1.2%)
部活 1 (1.2%)	旅行 1 (1.2%)
給食時間の BGM 1 (1.2%)	体育祭後 1 (1.2%)
体育祭の BGM 1 (1.2%)	失恋 1 (1.2%)
レコード 1 (1.2%)	死 1 (1.2%)

8-2b : 「先生」型 (17名)

学校内 15 名 (17.4%)	学校外 2 名 (2.3%)
授業 8 (試験 3, 学年の合唱 1) (9.3%)	コンクール 1 (1.2%)
合唱コンクール 2 (2.3%)	貝堀 1 (1.2%)
出会い・別れ 2 (2.3%)	
卒業式 1 (1.2%)	
校歌 1 (1.2%)	
運動会 1 (1.2%)	

8-2c : 「先生 - 友人」型 (26名)

学校内 26 名 (30.2%)	学校外 0 名 (0%)
合唱コンクール 8 (9.3%)	
卒業式 7 (8.1%)	
授業 4 (4.7%)	
部活 2 (合唱 1) (2.3%)	
転校 2 (2.3%)	
定期演奏会 1 (1.2%)	
お遊戯会 1 (1.2%)	
別れ 1 (1.2%) *	

*「卒業式」の時期だった。

8-2d : 「好きな人」型 (4名)

学校内 1 名 (1.2%)	学校外 3 名 (3.5%)
文化祭 1 (軽音楽 1) (1.2%)	片思い・歌詞 1 (1.2%)
	告白・雰囲気 1 (1.2%)
	失恋 1 (1.2%)

8-2e : 「好きな人 - 友人」型 (6名)

学校内 2 名 (2.3%)	学校外 4 名 (4.7%)
卒業式 1 (1.2%)	好きな人が好きだった 1 (1.2%)
卒業式後 1 (1.2%)	友人がテープをくれた 1 (1.2%)
	気持ちと一致した 1 (1.2%)
	ラジオ・歌詞 1 (1.2%)

「人」「場所」別による「きっかけ」の分類 (上位 2 位)

8-3a : 「友人」型 (19名)

体育館 10 名 (11.6%)	教室 9 名 (10.5%)
卒業式 4 (卒業演奏会 1) (4.7%)	休み時間・放課後 3 (3.5%)
合唱コンクール 4 (4.7%)	授業 2 (2.3%) *
文化祭 1 (合唱 1) (1.2%)	合唱コンクール 2 (2.3%)
文化祭 1 (軽音楽 1) (1.2%)	文化祭 1 (合唱 1) (1.2%)
	給食時間の BGM 1 (1.2%)

*「伴奏」を担当したことがきっかけとなった者がいた。

8-3b : 「先生」型 (11名)

体育館 2 名 (2.3%)	教室 9 名 (10.5%)
授業 1 (学年の合唱 1) (1.2%)	授業 6 (7.0%) **
校歌 1 (1.2%) *	出会い・別れ 2 (歓迎会 1・送 別会 1) (2.3%)
	合唱コンクール 1 (1.2%) ***

*「伴奏」を担当したことがきっかけとなっていた。

** 3 名は「歌の試験」で褒められたことがきっかけとなっていた。

***「伴奏」を担当したことがきっかけとなっていた。

8-3c : 「先生 - 友人型」(19名)

体育館 9 名 (10.5%)	教室 10 名 (11.6%)
卒業式 4 (4.7%) *	授業 3 (3.5%)
合唱コンクール 2 (2.3%) *	合唱コンクール 3 (3.5%) *
部活 (合唱) 1 (1.2%) **	卒業式 2 (2.3%)
定期演奏会 1 (1.2%) **	部活 1 (1.2%) ***
お遊戯会 1 (1.2%)	転校 1 (1.2%) *

*「伴奏」を担当したことがきっかけとなった者がいた。

**「ソリスト」を担当したことがきっかけとなっていた。

***「引退式」がきっかけとなっていた。

学校内での「思い出のうた」の形成のきっかけは、「卒業式」と「合唱コンクール」がもっとも多かった(表7-1, 8-1)。両者は、「合唱」という形態と、「授業」外の「学校行事」である点が共通している。そのため、「学校行事」という特殊な状況で能動的に集団での音楽活動を行うことで、音楽とエピソードが結びつき、「思い出のうた」を形成しているのではないかと思われる。

「授業」がきっかけとなった者が少なかった理由として、①授業でも「思い出のうた」が形成されていたが、それよりも「学校行事」がきっかけとなった者が多かった、②授業での歌唱活動は特定のエピソードと結びつくことが少ないため、「思い出のうた」として形成されにくいということが考えられた。

少数ではあるが、「卒業式後」「体育祭後」に「思い出のうた」が形成された者がみられた(表7-2a, 8-2a, 8-2e)。そのため、「卒業式」「体育祭」というイベントにより、感情が高まったときに「思い出のうた」が形成される場合と、高まった感情が鎮静化したときに、「思い出のうた」が形成される場合とがあることが考えられる。

VI. 「感情」による分類

「思い出のうた」形成過程に関わった人として「学校関係の人」が挙げられていた資料をもとに、「思い出のうた」形成過程に関連する「感情」について分類を行った。ここでは、感情を表すカテゴリーとして、

上野 (1979) と見田 (1978) を参考に分析を行った野村・藤埴・山田 (1991) の方法に準じた。その際、適切なカテゴリーに分類できなかったデータがあったため、明るい外向的感情として、「充実感」と「誇らしい」というカテゴリーを加え、分類を行った。

表9. 教育学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「感情」による分類

9-1: 全体 (107名: 137語)

明るい		暗い
内向的 38 (27.7%)	外向的 76 (55.5%)	内向的 23 (16.8%)
慕情 14 (10.2%)	充実感 34 (24.8%)	寂しい 12 (8.8%)
好き 12 (8.8%)	感動 19 (13.9%)	悲しい 4 (2.9%)
嬉しい 6 (4.4%)	希望 9 (6.6%)	辛い 3 (2.2%)
楽しい 3 (2.2%)	誇らしい 6 (4.4%)	悔しい 3 (2.2%)
幸福 2 (1.5%)	美しい 6 (4.4%)	不安 1 (0.7%)
優しい 1 (0.7%)	憧れ 2 (1.5%)	

「感情」は「きっかけ」と関連があると考えられた。そのため、以下では各「きっかけ」ごとに「感情」の分類を行った。

9-2: 全体 (107名)

充実感 34	感動 19	慕情 14
合唱コンクール 19 (17.8%)	合唱コンクール 7 (6.5%)	卒業式 4 (3.7%)
部活 4(合唱 3)(%)	卒業式 6 (5.6%)	恋愛 3 (2.8%)
卒業式 3 (2.8%)	部活 2 (合唱 1) (1.9%)	部活 3 (野球 2) (2.8%)
授業 2 (合唱 1) (1.9%)	文化祭 1 (合唱 1) (0.9%)	カラオケ 2 (1.9%)
音楽会 2 (1.9%)	結婚式 1 (合唱 1) (0.9%)	休み時間・放課後 1 (0.9%)
学年の劇 1 (0.9%)	学年の劇 1 (0.9%)	恋愛・友情 1 (0.9%)
文化祭 1 (合唱 1) (0.9%)	卒業式後 1 (0.9%)	
受験 1 (0.9%)		
お別れ会 1 (0.9%)		

教育学部生では、「充実感」という感情が最も多かった。きっかけは「合唱」が大部分を占め、集団で一つの作品に取り組み、舞台上で披露するまでの過程や結果が理由として挙げられていた。

表10. 音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程に関連する「感情」による分類

10-1: 全体 (86名: 128語)

明るい		暗い
内向的 47 (36.7%)	外向的 58 (45.3%)	内向的 23 (18.0%)
好き 18 (14.1%)	充実感 21 (16.4%)	悲しい 8 (6.3%)
慕情 17 (13.3%)	誇らしい 13 (10.2%)	寂しい 6 (4.7%)
嬉しい 5 (3.9%)	感動 12 (9.4%)	辛い 6 (4.7%)
楽しい 4 (3.1%)	希望 6 (4.7%)	悔しい 3 (2.3%)
幸福 1 (0.8%)	憧れ 2 (1.6%)	
優しい 1 (0.8%)	美しい 2 (1.6%)	
愛しい 1 (0.8%)	責任 2 (1.6%)	

音楽学部学生では、「誇らしい」という感情も多くみられた。主な内容は合唱の伴奏やソリストを務めたこと、試験で賞賛されたことによるもので、その出来事が音楽大学への進学を決定するきっかけとなった者もみられた。

「感情」は「きっかけ」と関連があると考えられた。そのため、以下では各「きっかけ」ごとに「感情」の分類を行った。

10-2: 全体 (86名)

充実 21	好き 18	慕情 17
合唱コンクール 9 (10.5%)	授業 6 (7.0%)	卒業式 4 (4.7%)
授業 2 (2.3%)	卒業式 3 (3.5%)	下校時 2 (2.3%)
学年の合唱 1 (1.2%)	恋愛 3 (3.5%)	授業 2 (2.3%)
部活 1 (合唱 1) (1.2%)	合唱コンクール 2 (2.3%)	友情 2 (2.3%)
定期演奏会 1 (1.2%)	休み時間・放課後 2 (2.3%)	体育祭の BGM1 (1.2%)
卒業演奏会 1 (1.2%)	学芸会 1 (1.2%)	恋愛 2 (2.3%)
卒業式後 1 (1.2%)	給食時間 1 (1.2%)	お遊戯会 1 (1.2%)
		転校 1 (1.2%)
		校歌 1 (1.2%)
		修学旅行 1 (1.2%)

教育学部学生・音楽学部学生とも、暗い内向的感情はみられなかった (9-1, 10-1)。現代は平和な時代であるため、戦時中に比べ暗い内向的感情を経験するような機会は減っている。そのため、野村ら (1991) の戦後という時代背景における「思い出のうた」形成過程の分析結果とは異なる結果が生じたと考えられる。

VII. 「思い出のうた」形成過程による分類

ここでは、思い出が先にあり、後にうたと結びついたものを「思い出先行型」、うたをすでに知っていて、後に思い出と結びついたものを「うた先行型」、知らなかったうたを初めて聴いたりうたったりした際にものを「同時型-第一印象型」、知らなかったうたを聴いたりうたったりしているうちに思い出のうたが形成されたものを「同時型-相互作用型」として分析を行った。

表11. 教育学部学生の「思い出のうた」形成過程による分類*

思い出先行型	うた先行型	同時型	
		第一印象型	相互作用型
19 (18.1%)	38 (36.2%)	7 (6.7%)	41 (38.3%)

*不明2名は分析から除外した。総数105をパーセンテージの分母とした。

表12. 音楽学部学生の「思い出のうた」形成過程による分類*

思い出先行型	うた先行型	同時型	
		第一印象型	相互作用型
14 (16.3%)	22 (25.6%)	10 (11.6%)	40 (46.5%)

*総数86をパーセンテージの分母とした。

教育学部学生、音楽学部学生とも、「同時・相互作用型」が最も多かった。主な内容としては合唱コンクールが多く、発表に向けて練習を行っているうちに集団の連帯感が増し、活動の達成感が得られたというものであった。教育学部学生の場合は、知っているうたがあるきっかけにより「思い出のうた」となる「うた先行型」も多くみられた。「感情」との関連では、「思い出先行型」では「慕情」, 「うた先行型」「同時型」では、「充実感」「感動」が多かった。

総合的考察

本研究では、比較的近年の学校教育における音楽の影響を受けた「思い出のうた」の形成過程を明らかにすることを目的とし、学校教育で接した音楽が児童・生徒に及ぼす影響について調査を行った。その結果「思い出のうた」は、学校に関わる人・環境の中で「卒業」の年代に形成されており、特に中学校時代に友人や教師との間で最も多く形成されていた。きっかけは教育学部学生では「合唱コンクール」が、音楽学部学生では「授業」が大部分を占めていた。教育学部生は自意識が外部に向かい、集団を通して自己を形成し、音楽学部学生は自意識が内部に向かい、個を通し

て自己を形成しているとも考えることもできる。教育学部生は、合唱という集団での目的達成感や技能の集団的獲得に、音楽学部生は、授業の中で個の能力発揮が重視される活動に価値を見出していると思われる。こうした傾向が、教育志向・芸術志向に関連していると解することもできる。形成過程では、知らなかったうたを聴いたりうたったりしているうちに思い出のうたが形成される「同時型-相互作用型」が最も多かった。これらの結果は、中学校高学年から高等学校にかけての思春期の時期に、音楽が「思い出」と結びつきやすいということを示している。したがって、最も「思い出のうた」が形成されやすい思春期における音楽教育の扱いを重視しなければならない。

現在の学習指導要領では、高学年になるにつれて音楽の授業時間数が削減されているが、これは音楽教育の最も大切な時期を逃すことにつながりかねない。中学校高学年から高等学校にかけての音楽活動は生徒の人生に最も影響を与える可能性があるため、この時期の音楽教育は特に慎重に行われる必要がある。また、この時期の音楽教育を効果的に行うためにも、小学校における音楽教育を丁寧実践していかなければならない。今後は、「思い出のうた」を形成することに効果的な教材選択・教授法について検討を行う必要がある。

【参考・引用文献】

- 荒木剛・仁平義明 2001 歌による日常的なストレスコーピングに関する研究 - リズィリエンシー (resiliency) との関連 - 音楽知覚認知研究, 7, 1, 3-12.
- 見田宗介 1978 近代日本の心情の歴史 講談社
- 野村幸治・藤墳智一・山田浩之 1991 「思い出のうた」形成過程の分析 - NHK「日本のうた ふるさとのうた」を中心にして 季刊音楽研究, 67, 146-162.
- 野村幸治・藤墳智一・山田浩之 1994 第9章 出会いとしての音楽 片岡徳雄編 文芸の教育社会学 福村出版 Pp.171-194.
- Smith, D. S. 1991 A comparison of group performance and song familiarity on cued recall tasks with older adults. *Journal of Music Therapy*, 28, 1, 2-13.
- 高橋多喜子 1997 高齢者の「なじみの歌」に関する調査報告 日本バイオミュージック学会誌, 15, 1, 68-76.
- 上野博正 1979 流行歌の意味論 加太こうじ・佃実夫編 流行歌の秘密 文和書房